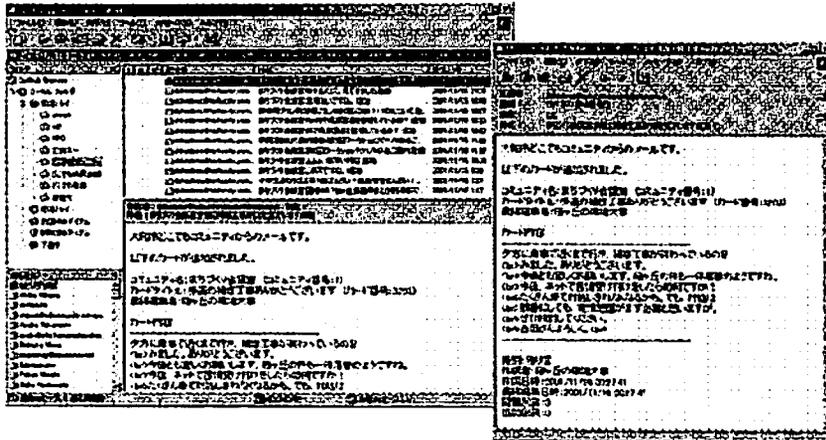


メーリングリストと連動

市民2147人 職員1423人が参加



(C) Copyright, 2007 Takashi Kobayashi, Tokai Univ. © SPSE

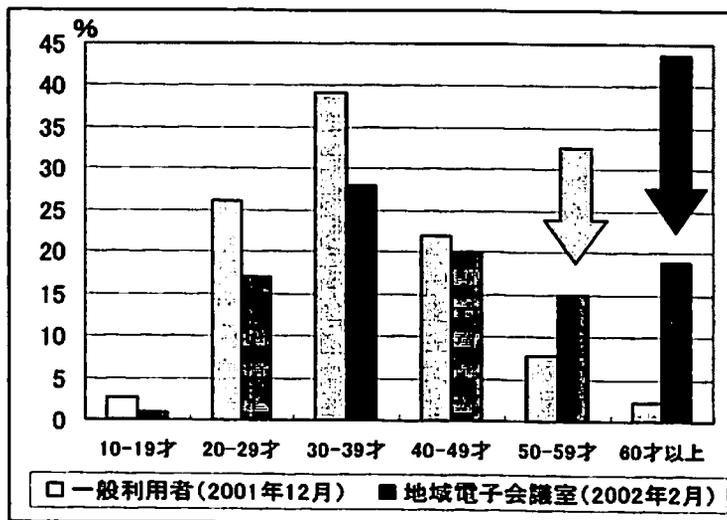
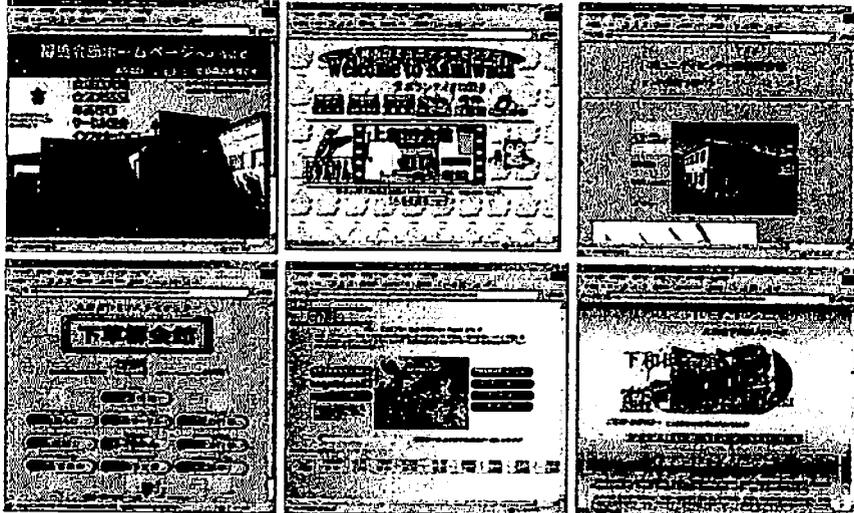


図-1 一般利用者と地域電子会議室の年齢構成

(C) Copyright, 2007 Takashi Kobayashi, Tokai Univ. © SPSE



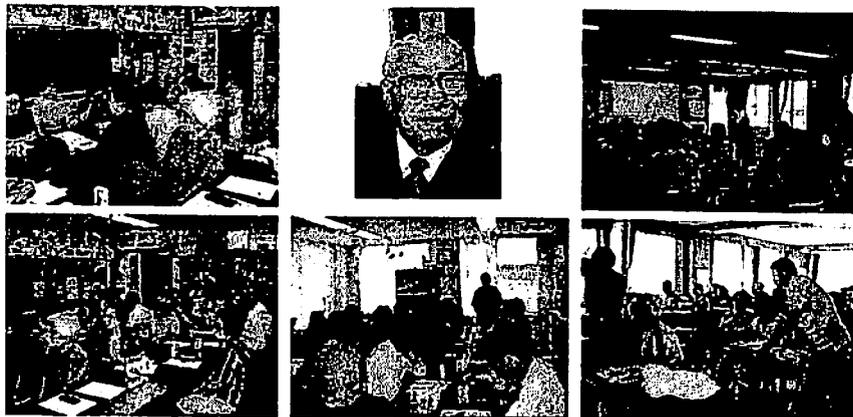
市民のIT利用の拡大



(C) Copyright, 2007 Takashi Kobayashi, Tokai Univ. © SPSE



市民のIT利用の拡大



西鶴間自治会IT研究会

(C) Copyright, 2007 Takashi Kobayashi, Tokai Univ. © SPSE

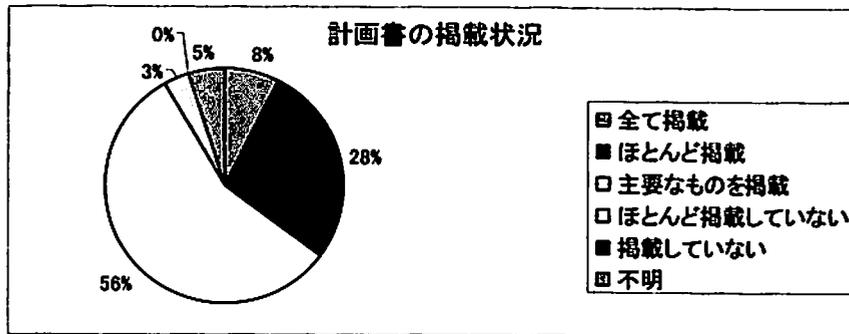


図6-2-1 計画情報の電子化の状況

(C) Copyright, 2007 Takashi Kobayashi, Tokai Univ. © SPSE

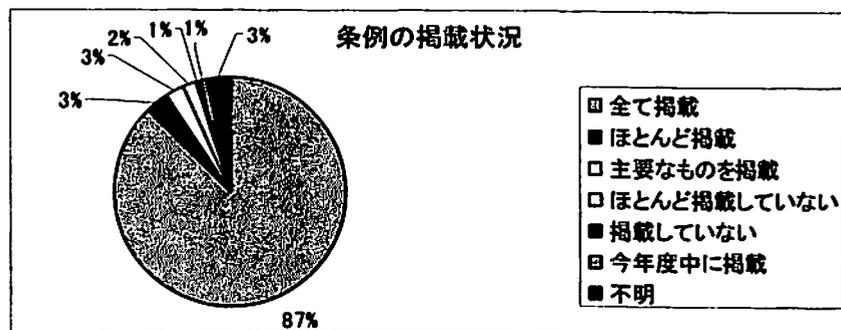


図6-2-2 条例情報の電子化の状況

(C) Copyright, 2007 Takashi Kobayashi, Tokai Univ. © SPSE

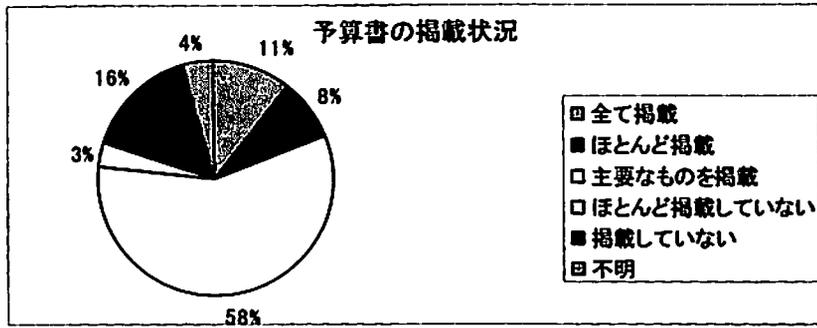


図6-2-3 予算情報の電子化の状況

(C) Copyright, 2007 Takashi Kobayashi, Tokai Univ. © SPSE



4

ICカードは使えるか？

(C) Copyright, 2007 Takashi Kobayashi, Tokai Univ. © SPSE

住基カード発行ならびに利用状況

住基カードの人口に対する普及率

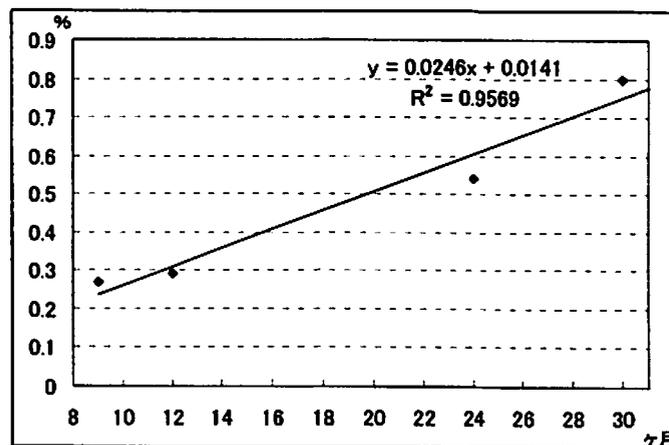
- 本研究調査:2004年度 0.27%
- 総務省調査:2004年8月 0.29%
- 総務省調査:2005年8月 0.57%
- 本研究調査:2005年度 0.79%



4時点の普及率に対して回帰直線を求める

(C) Copyright, Takashi Kobayashi, Tokai Univ. © SPSE

住基カード発行ならびに利用状況

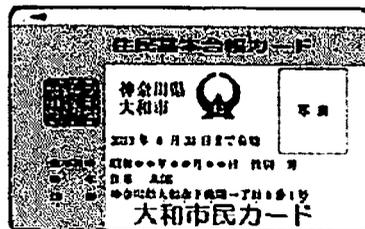
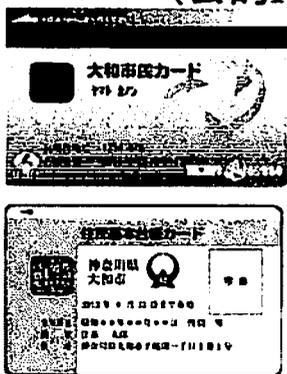


このままのペースでは普及率50%まで169年かかる

(C) Copyright, Takashi Kobayashi, Tokai Univ. © SPSE

神奈川県大和市 (公的ICカード普及率40%超)

H17.1.26運用開始

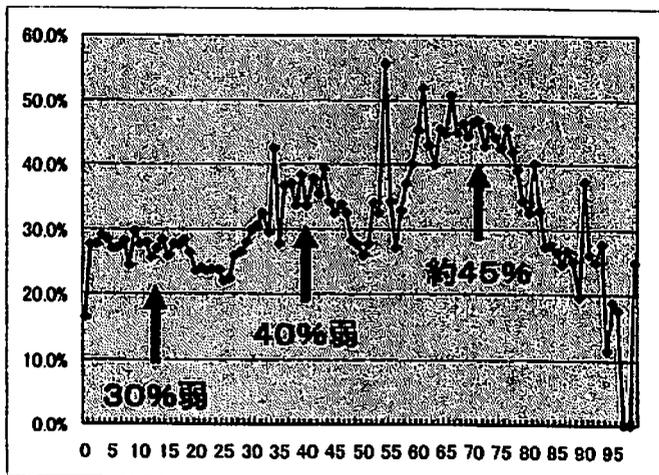


(使える機能)

- ・住民票の写しの交付(市内および市外で交付可)
- ・印鑑登録証明書の交付(市内でのみ交付可)
- ・公的個人認証(電子申請・電子申告への活用)
- ・国保資格証明書の発行(大和市立病院でのみ利用可)
- ・電子地域通貨(ラブ)
- ・図書貸し出し(H17.4運用開始予定)
- ・転出手続きの簡素化
- ・身分証明書(写真付きの場合)
- ・学習センター、スポーツ施設の予約

(C) Copyright, Takashi Kobayashi, Tokai Univ. © SPSE

年齢別ICカード申請率



(C) Copyright, 2007 Takashi Kobayashi, Tokai Univ. © SPSE

ICカード利用者

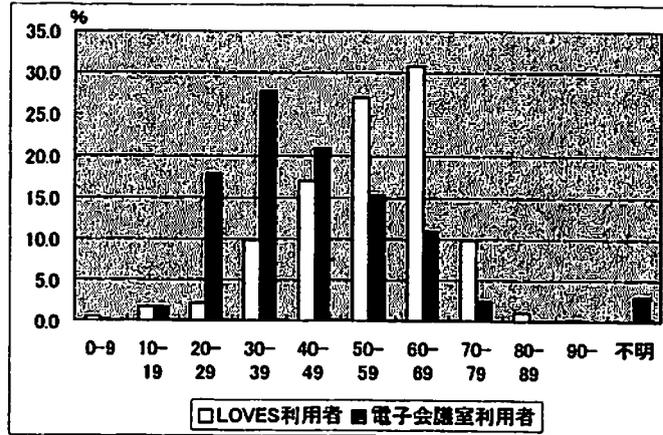


図-6 年齢別 LOVES 利用者数と電子会議室利用者数

(C) Copyright, 2007 Takashi Kobayashi, Tokai Univ. © SPSE

荒川区住基カード電子マネー



(C) Copyright, Takashi Kobayashi, Tokai Univ. © SPSE



荒川区住基カード電子マネー



(C) Copyright, Takashi Kobayashi, Tokai Univ. © SPSE

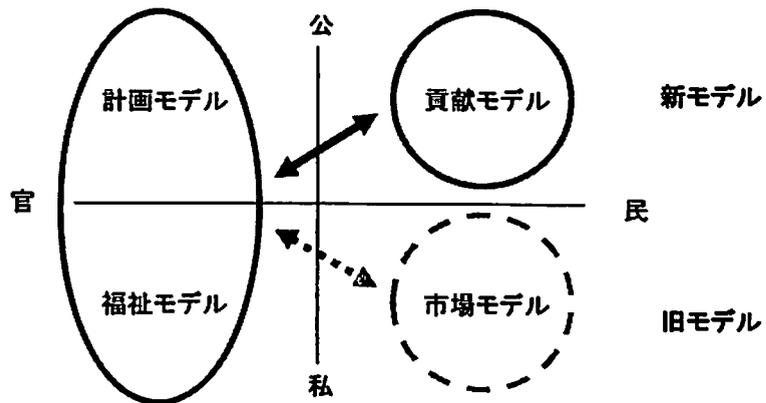


5

自治体の情報戦略

(C) Copyright, 2007 Takashi Kobayashi, Tokai Univ. © SPSE

情報社会の価値観による改革モデル



慶應義塾大学環境情報学部 部長 熊坂賢次 教授 作成に加筆

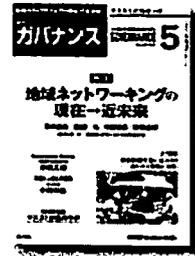
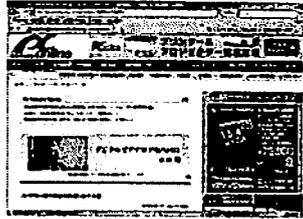
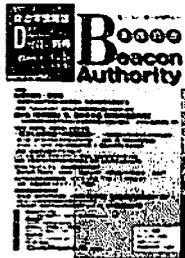
(C) Copyright, 2007 Takashi Kobayashi, Tokai Univ. © SPSE

自治体情報戦略

1. だれもが、気づき、知ることができる環境をICTでつくること
2. 気づいて、知った人が、協働のまちづくりのための行動を起こすことができる環境をつくること
3. 住民や職員が起こした行動を受けて、行政が変わることができる環境をつくること

(C) Copyright, 2005 Takashi Kobayashi, Tokai Univ. © SPSE

連載中のコラム



・小林隆「気づく自治社会への構造転換 ～情報社会における下からの分権改革～」
季刊実践自治、イマジン出版

・小林隆「Web時代の発想法」月刊ガバナンス、ぎょうせい

小林隆「コラム：デジタルでアナログな共同体」日経パソコンオンライン、
http://pc.nikkeibp.co.jp/rss/pc_column_kobayashi.rdf、隔週木曜日、連載中

(C) Copyright, Takashi Kobayashi, Tokai Univ. © SPSE



Contact Address

小林 隆 (Takashi Kobayashi)

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目1117
東海大学政治経済学部政治学科 第14研究室
Tel:0463-58-1211 内線3219 Fax:0463-50-2025

Home: <http://takashikobayashi.com/>
Email: tk@takashikobayashi.com



(C) Copyright, 2007 Takashi Kobayashi, Tokai Univ. © SPSE